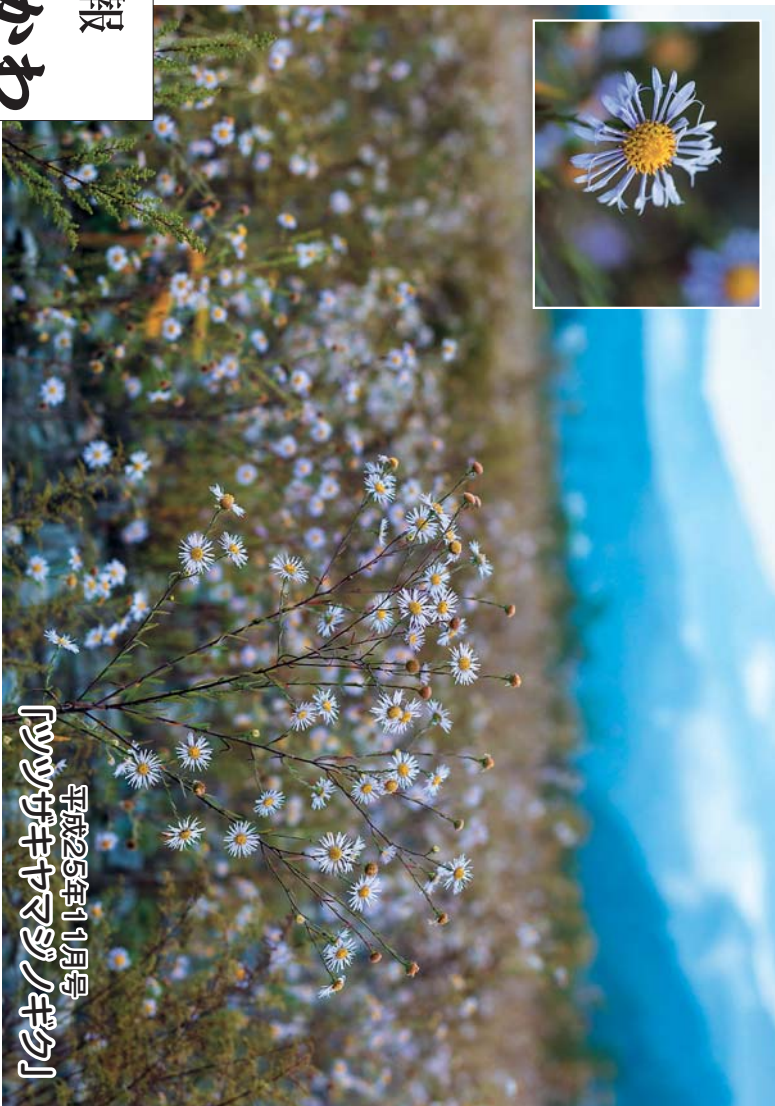


平成26年11月号  
「赤岩」



平成24年7月号  
「夕麗」



平成25年11月号  
「ツツギキハラシノギク」

館報  
まつかわ  
松川町公民館報  
第649号  
平成29年11月15日



平成22年11月号  
「クエンスのほだ」



輪になってダンス



ゴ〜ル!!

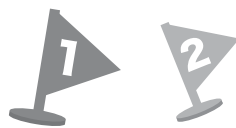


のぞいてリレー



一番の楽しみはこれかも

上戸桐地区  
10月8日(日)  
北小学校校庭



年代を問わず参加



なかなかくわえられない…!!



大福はどこだ?

運動会



ゲット!!



天に向かって玉入れ  
スタート



夢の中で  
応援してます♡

大島地区  
10月9日(月)  
松川中学校校庭



恒例のおでんににっこり



勝負あった!



大地を踏みしめ  
イチ・ニ・イチ・ニ



風を切ってバトンをつなぐ



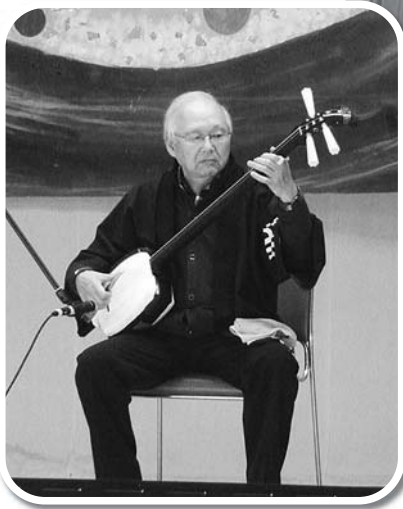
# 松川町文化祭

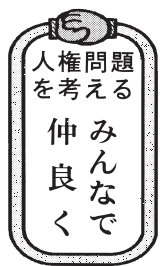
第24回

平成29年10月

27日(金)・28日(土)・29日(日)

町内の文化芸術を愛する皆さんの作品が一堂に集まり披露されました。





松川中学校

### 仲間の頑張りを認め合い 励まし合う活動

松川中学校では9月30日に、我が校の文化祭である「松風祭」が行われました。松風祭当日は総合的な学習をはじめとする学習発表や、演劇部や吹奏楽部による発表、学年やクラスによる合唱の発表などが催され、充実した行事となりました。

あるクラスでは松風祭前に「言葉の花束」という活動を行いました。クラス全員が仲間の活動の様子を振り返り、良かったところや印象的だったところを見つけ出し、一人一人に向けてエールを送りました。以下はその一例です。

いつもニコニコしてて良いね!! 当日までブルーカード(※)が連続でとれるといいね。男女関係なく仲良く接しててイイね。 クラスを和やかな雰囲気にしてくれてありがとう。 自分の係をしつかりやっていてすごいと思った。(※給食の準備のとき、時間内にとりに行ったことを示すカード)

「言葉の花束」(一部抜粋) ・ある男子生徒への「言葉の花束」 いつも笑わせてくれてありがとう! 応援練習を教えてください! いつも前まで聞こえてくるきれいな歌声がよいと思う。

松風祭後には、活動の反省だけでなく、仲間の姿について振り返りました。それまでの準備の様子や当日の活動の中で、特に輝いていた仲間の姿を記しました。

「松風祭で輝いていた仲間の姿」総合発表していた人たちが堂々としていた。 意気込みビデオを撮影したときみんなの笑顔。 大きく口を開き、大きな声で歌った姿。 居残りをしてビデオや学級旗作成を頑張っていた。 役員の人たちが土曜日などに準備をしていたこと。 演劇部、吹奏楽部。 緊張しているはずなのに見せないところ。 歌練習をすると伝えたら、それに合わせて行動してくれた友達。 自分を応援してくれた。 3年生の学年合唱はとりはだか立つくらいきれいで感動した。 いつもはふざけている人もしつかりやっていた。 自分から物などを運んでいる友だちの姿。 みんなが一人一人歌っていた。 一人一人が他人任せにせず自分のしごとをやっていたところ。

松川中学校では、先月松風祭が終了し、これからは2学年を中心とした生徒会がつくられます。これからも、生徒一人一人が仲間の頑張りを認め合い、励まし合えるようにしていきたいと思えます。

## すぽっと えほん料理教室

松川町図書館では、9月23日(土)に、第2回えほん料理教室を開催しました。絵本に出てくる料理を作るこの企画、今回はサンドイッチを作りました。講師は、前回に引き続き、地域おこし協力隊の大場みゆきさんにお越しいただきました。

おうちでも子どもだけで作れるよう、大場さんは包丁や火を使わない作り方を教えてくださいました。みんなで協力しながら、レタスやハム、チーズ、水菜やカニカマなどをたっぷりはさんだ、大きなサンドイッチができました。作った後は、みんなで大きな口を開けておいしくいただきました。 まだ時期等は未定ですが、第3回えほん料理教室も開催



今回は、この絵本が教材



する予定です。作りたいたい料理等がありましたら、ぜひ図書館までお知らせください!

### 公民館手話体験講座

## 手話でコミュニケーション

- ◆期 日 12月16日(土) 午後2時より4時
  - ◆会 場 松川町中央公民館 えみりあ 学習室1(2階)
  - ◆参加費 無料
- 参加希望の方は12月11日(月)迄に、中央公民館へ申し込みをお願いします。

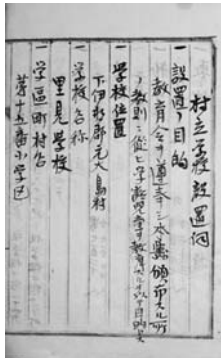
# 松川町今昔

資料館だより

## ◆第17回◆ 「学校のはじまり」

明治5年(1872)学制が頒布されると、それぞれの村々で、学校を開校するための準備が始められました。建物はないので、個人の家を借りたりお寺を利用したりして、開校にこぎつけました。筑摩県では子どもたちをできるだけ多く学ばせようと、いろいろな通知を出して奨励しました。現在のように全員が学校へ行くというわけではありませんでした。

松川町の村々にもいくつかの学校が設置されました。「竜西学校」「新々学校」「桑園学校」「精研学校」「至哉学校」などです。その後名称を変えて、「里見学校」「上新井学校」「大島学校」「上片桐学校」「中山学校」などとなりました。さらに制度の変更に伴い学校はめまぐるしく変わり、明治22年(1889)の市制町村制の実施により「大島尋常小学校」「上片桐尋常小学校」「中山尋常小学校」となりました。写真の文書は、旧大島村の役場文書の中にあつた学校設

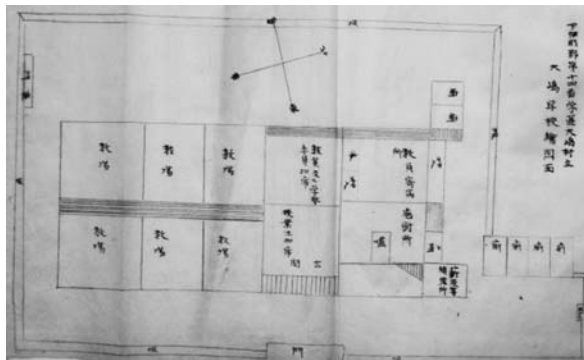


立伺書です。これは明治15年(1882)と1883)に各学校が下伊那郡役所を経由して、長野県に提出した文書の控えです。どの文書も様式がそろっていて、県の指示に従いひな形を参考にして作成したものと思います。

書かれていることは、設置の目的・学校位置・学校名称・学区町村名・人口・学齢人数・就学生徒概数・敷地・校舎・学校規則(校則)・生徒心得)・教員職務心得・器械(備品)・教員数・教則・学費

収入概数・学費支出概数・校舎図などです。

校則の中には登校・退校の時刻・授業料の額・伝染病にかかった時の登校停止・一年間の日曜日以外の休日などが書かれています。また生徒心得には、早起き・洗顔・登校準備・教師の話をよく聞くこと・学校備品や書物の丁寧な扱い・遅刻した場合・人を誹謗することや喧嘩の禁止・校内の障子や襖の開閉について、礼儀を尽くした挨拶など細々としたことが書かれています。また罰則も細かに決められています。



松川町資料館  
伊坪 達郎

# スポーツ

## 第22回オープンバドミントンミックス大会

第22回松川町オープンバドミントンミックス大会が10月15日(日)に松川町民体育館で行われました。結果は次のとおり。

### 松の上

- 優勝 小沼 良太・荻沼由果梨  
第2位 沢口 飛馬・代田 楓子

- 第3位 中山 仁・大場 麻也  
川の上 優勝 桃沢 佳吾・清水 夏葵  
第2位 宮下 佳浩・蒲 奈美保

- 第3位 杉山 文康・林 暁  
町の上 優勝 今村 佳晴・今井 博美  
第2位 池上 佳弘・佐藤 優  
第3位 桜井 誠・下沢 智子

～えみりあオープン1周年記念～

# フルートリサイタル



12月7日(木)

開演 18:00  
(開場17:30)

松川町中央公民館  
えみりあホール

一般 1,000円  
高校生以下無料  
(全席自由・税込)

※チケット制の為、高校生以下も申込が必要です。  
※申込・問い合わせは 中央公民館 えみりあ まで。

TEL 0265-36-2622



# 長野県公民館活動推進功労者表彰

元体育部長 塚本 聡さん

上片桐上町の塚本聡さんは今年3月まで中央公民館体育部で活躍されてきました。その年数は16年と長く、今年、長野県公民館活動推進功労者表彰を受けました。

体育部には先輩の誘いで入ったという塚本さん。たくさん先輩・後輩たちと出会い、多くの仲間ができたことがよかったです。

体育部は、おもに松川町駅伝大会、スポーツフェスティバル、トランポリン教室などを行なっています。そのたびに献身的に取り組んでくれました。長年体育部員をされてきたこともあり「過去にトランポリン教室に来ていた小学生が、いつの間にか成人を迎えていた」なんてこともしばしば。スポーツフェスティバルなどを通じて町の皆さんに二ユースポーツを紹介したり、運動することの大切さを多くの人に広めてきました。塚本さん自身もソフトボールを中心にスポーツを楽しんでいます。ソフトボールは複数のチームに所属しているので、多い時には週に5日もソ

フトボールをすることがあるとか。少ない時でも週に2日はソフトボールを楽しんでいます。体育部をやめた今でも自分から積極的に体を動かすことを実践されています。



## 俳句

四季の俳句 名子北部 亀山勝保 (暁風)

墨染む春という字の笑い声

飛行機雲アレフォルメルに夏の空

鑑みて墨象をみる良夜かな

版摺りを終えて息詰む夜の秋

滝つらら仁王のごとく踏ん張れり

冬深む棟方志功のモノクロゾ



松川北小学校

## タご飯

6年 大場 襟歌

今日、お母さんと一緒に、タご飯の野菜いためを作りました。

まず私が、ピーマンと玉ねぎを切つて、お母さんがお肉をいためました。私が野菜を切り終わつたら、交代して私がいためました。少して、ピーマンと玉ねぎがやわらかくなって少しこげめがついたら、お母さんがお皿に盛り付けました。そして塩コショウをかけて、出来上がりです。食べてみると、お母さんと二人で作つた野菜いためは、すこい味でした。

お母さんは、いつもは一人でおいしいご飯を作ってくれます。やっぱりお母さんはすこいです。ピーマンは少し苦かったです。お母さんが作つたので、なぜかたくさん食べられました。私は、「お母さんはすこいなあ。」と思いつつながら食べました。

次は私一人で作つて、お母さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。また、いためる以外の料理も作つてみたいと思います。がんばります。

## ラジオ体操

6年 片桐ひかり

夏休み、ラジオ体操をやりました。城支部は、まだ小学生ではない小さい子も来てくれるので、にぎやかになります。また、子どもより大人の方が参加してくれるので、すこいなあと

思います。毎日朝早く起きてラジオ体操をすると、何だか気持ちがよくて、とても目が覚めます。大人の人たちも、眠そうなきにラジオ体操をすると、目がシャキッとして、とても元気に帰っていきます。「こんなにすこいラジオ体操を、だれが考えたんだらう。」と不思議に思い、とても気になります。

去年までは、少し寝ぼけをして行かない日があつたけれど、今年は支部長なので、毎日行っています。毎日行っていると、少し体がほぐされて、良い気分になります。小学校のラジオ体操は今年で終わりだけど、またやりたいなあと思いました。





# Red Stone★ フットサルクラブです。



創設して3年目になりました。

元々、町の少年少女サッカークラブの保護者で、自分達もサッカーがしたいと創立し、上手下手は全く関係なく、運動不足解消も兼ね、年齢も様々、週1回の練習の他、年に数回は大会にも参加し、みんなで楽しくをモットーに活動しています。

昔サッカーをやっていて、又少しやってみようかなと思われている方、サッカーはやったことないけど楽しく体を動かしたい方、フットサルの試合に出てみたいという方、少しでも興味がわいた方、ぜひ一度体験にお越しください。一緒に楽しく汗を流しましょう☆  
(代表：福沢 副代表：米山 問い合わせ 中央公民館)

ここにしかない花

第5回地域を知る講座

ツツザキヤマジノギク観察会

10月21日(土)

「伊那谷の固有種、松川町の誇りである」

今回の観察会の講師である伊那谷自然友の会の堤久さんの言葉です。

そうです。ツツザキヤマジノギクは、かつては伊那谷に広く分布していましたが、今では小渋川の一部と松川町の天竜川で見られなくなり

ました。そんな貴重な植物がとても身近にあるのです。

【厳しい環境を選んだ花】

ツツザキヤマジノギクは玉石河原という、石がごろごろとしている場所で生息してきました。玉石河原は夏は高温、冬は低温、また雨が降ったり川が増水しなければ水もない乾燥した場所です。そのため



ツツザキヤマジノギク

ほかの植物が生息しにくく、競争相手が少ない場所でもあります。そんな場所を選んでツツザキヤマジノギクは生きてきました。

近年、そんな厳しい場所でも生息できる帰化植物(外国から入ってきた植物)が増え、ツツザキヤマジノギクの生息場所が奪われてしまっています。また、ダムができたことで洪水がなくなり、玉石河原そのものが減ってきているのです。つまり、人の手で守らなければツツザキヤマジノギクは失われてしまうのです。

【みんなで守ろう！】

松川町では社会教育委員の皆さんが中心となって、天竜川の河原に区画を設けてツツザキヤマジノギクの保護を進めています。今回の観察会もその区画で行われました。公民館の地域を知る講座では、

一般のみなさんにも参加してもらっての保護活動も行なっています。

今回は、保護している区画に花が咲いた株がいくつあるのか参加者に数えてもらいました。区画は3つありますが、合わせるると1400株ほどが確認されました。平成24年には、2つの区画ではありましたが合わせて70株ほどだったため、いかに保護活動の成果がでていのかわかります。さまざま活動によってこの花を知る人が少しずつ増えています。

講師の堤さんがおっしゃったように、ツツザキヤマジノギクをみんなが松川町の誇りと思い、みんなで保護していく町になったら…。そんなことを想像させる、世界にここだけの花です。



このような玉石河原に生える



今年も残すところあとわずかとなりました。1年を振り返ると何かと不順な天候が続いた年でした。雨が降らずに乾燥する日々、かと思えば延々と降り続ける雨とどめとばかりに台風が連続して襲来と天候に振り回されました。特に台風では松川町でも果樹を中心に大きな被害が出ました。

そんな台風ともに行われた衆議院議員総選挙。投票率の低下が心配されましたが、新聞などによると長野県では約6割の有権者が投票されたそうです。事情があつて投票できない方もいるとは思いますが、約4割の人が投票をしなければならぬのは残念だと思いませんか。特に若者の投票率が伸び悩んでいるようですが、「どうせ変わらない」と思わず選挙で投票することで意思表示をしてもらいたいと思います。

大久保康司

公民館報  
「まつかわ」  
第 649 号  
平成29年11月15日

発行所 松川町公民館  
責任者 小 沢 誠  
編集人 公民館編集部  
Tel 36-2622  
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp  
飯田市上郷黒田121  
印刷所 龍共印刷(株)

再生紙を使用しています。